

## 編 集 後 記

「別府史談」第3号に掲載しました富来隆教授の論文『景行の豊国進攻と速津姫の奉迎』は、記紀の新しい読み方による解釈として、学会でたいへん評価の高いものでした。第4号の巻頭に掲載した同教授の「人と言葉」も増刷りして各方面に配布します。反響が楽しみです。

第4号は期せずして明治・大正期に集中し、あたかも近現代史特集のようになりました。別府町時代や別府市制後間もない、過ぎし日々をしのぶとともに、郷土の新たな活性化の一助ともなれればと考えています。

星野純郎氏「別府温泉地獄巡り」は、かつての名ガイド村上綾子さんがお持ちのテキストとレコードをもとに、お書きになりました。なつかしい名調子を思い出され、昭和初期の別府観光を彷彿とさせるものがあります。

「別府繁昌記」は、明治四十一年六月に大阪毎日新聞が連載したもので、先日古書即売会で偶然入手しました。三面先生とは、当時同新聞社の記者であった菊地池幽芳です。八十余年以前の別府の有様がよく分かります。次回は共同温泉・砂湯温泉についての記事を紹介する予定です。

「別府の伝説」は故堀藤吉郎氏の「別府の情話と伝説」より、ご令息の堀千万人氏のご快諾をえて転載しました。今回は巨人伝説として、鎮西八郎為朝の話をもとめた。

銅鐸形土製品については、会員であり日本考古学会員でもある佐藤曉氏のご研究の一端を紹介しました。

機関誌「別府史談」、百ページを目指して努力してきました。会員の方々のご投稿を心よりお待ちしております。